

論文執筆上の注意

令和2年6月

大分大学経済学部教育研究支援室

1. 論文で引用したり，参照したりした文献については明記する。文献の表示については，本文中に（著者名，発行年，ページ）というかたちにしてもよいし，脚注で表記してもよい。なお，脚注で表記する場合も，当該箇所のページを明記すること。

本文注の例：（大橋，2004，p.30）

（Giddens，1998，p.105）

2. 数字等の表記（参考）

数字やアルファベットなどは，原則として半角とする。

本文中において数や量などを表す数字の表記は，原則として単位語（兆，億，万）を付ける。カンマは入れない。

例： 12億8600万人， 15兆300億円

3. 図表にカラーは用いない。学生懸賞論文集がカラー印刷ではないので，カラー別に表現したグラフ等が理解されづらいため。
4. 本文注にした場合は巻末に必ず参考文献一覧をつけること。参考文献を表記する際には，次の点に従うこと。（脚注で表記する場合も以下を参考にすること）

【日本語文献】

《単著書の場合》

著者名〔著は省略〕（発行年）『書名』出版者。

副題を含め，正式の書名を明記する。

（例）

橋本俊詔（2002）『安心の経済学——ライフサイクルのリスクにどう対処するか』岩波書店。

《共著書の場合》

共著者名または編著者名〔共著者，共編者を「・」でつなぐ〕（発行年）『書名』出版者。

編者等の場合は，編・編著・監修などを添える。

シリーズ名等を書名の後に丸カッコ内で示してもよい[『書名(シリーズ名)』]。

（例）

原純輔・盛山和夫（1999）『社会階層——豊かさの中の不平等』東京大学出版会。

埋橋孝文編（2003）『比較のなかの福祉国家（講座 福祉国家のゆくえ）』ミネルヴァ書房。

《雑誌論文の場合》

執筆者名（発行年）「論文タイトル」『掲載雑誌名』巻号，ページ数〔論文の最初のページと最後のページを pp. - として表示する〕。

（例）

大橋勇雄（2004）「労働法制に関する経済学的な見方」『日本労働研究雑誌』第523号，pp.26-34。

岡崎哲二・澤田充（2003）「銀行統合と金融システムの安定性」『社会経済史学』第69巻第3号，pp.25-46。

《共著書中の論文の場合》

執筆者名（発行年）「論題」編著者名[編・編著・監修などを添える] **『書名』 出版者, ページ数。**

編者等が複数の場合は「・」でつなぐ。ただし、共著者等が多数にのぼる場合は、筆頭編(著)者名に「ほか」を付し、簡略化してもよい。

(例)

高山英男 (2003) 「経済のグローバル化とナショナリズム」大分大学経済学部編『グローバル化と日本経済・社会』ミネルヴァ書房, pp. 2-16.

《訳書の場合》

編著者名[著は省略] **(訳者名)** [訳を添える] **(発行年) 『書名』 出版者。**

編著者が複数の場合は、スラッシュでつなぐ。翻訳者が複数の場合は「・」でつなぐ。

(例)

G. エスピン-アンデルセン (岡沢憲芙・宮本太郎監訳) (2001) 『福祉資本主義の三つの世界』ミネルヴァ書房。

B. L. ハチンズ/A. ハリソン (大前朔郎・石畑良太郎・高島道枝・安保則夫訳) (1976) 『イギリス工場法の歴史』新評論。

【英語等の文献】

《単著の場合》

著者名（発行年）“書名” 出版地, 出版者。

著者名は、ファミリーネームを先にし、カンマでファーストネーム等を続ける。ただし、著者が複数の場合はファースト・オーサー以外は、ファーストネーム、ファミリーネームの順とする。表記は原則として、原書の表記に従う(ファーストネームおよびミドルネームはイニシャル表記の場合もある)

(例)

Giddens, Anthony (1998) “The Third Way: The Renewal of Social Democracy” Cambridge, Polity Press.

《共著書の場合》

著者名または編者名（発行年）“書名” 出版地, 出版者。

複数の著者・編者はandでつなぐ。ただし、共著者等が多数にのぼる場合は、筆頭編(著)者名にet al.を用い、簡略化してもよい。

編者などの「編」は、ed.あるいはeds.を丸括弧を用いて補う。

(例)

Piore, Michael J. and Chareles F. Sable (1984) “The Second Industrial Divide: Possibilities for Prosperity” New York, Basic Books Inc..

Beardwell, Ian J. (eds.) “Contemporary Industrial Relations: A Critical Analysis” Oxford, Oxford University Press.

《雑誌論文の場合》

執筆者名（発行年）‘論文タイトル’ 掲載雑誌名[イタリック], **巻号, ページ数**[論文の最初のページと最後のページをpp. - として表示する]。

(例)

Strathdee, Robert (2004) ‘Outsourcing and Provision of Welfare-related Services to Unemployed Youth in New Zealand’ *Cambridge Journal of Economics*, vol. 28 No. 1, pp. 59-72.

Brown, W., S. Deakin, M. Hadson, C. Pratten and P. Ryan (2001) ‘The Limits of Statutory Trade Union Recognition’ *Industrial Relations Journal*, 32-3, pp. 235-261.

《共著書中の論文の場合》

執筆者名（発行年） ‘論題’ 編著者名 [ed. あるいは eds. を丸括弧に入れて添える] “書名” 出版地,
出版者, ページ数.

(例)

Hyman, Richard (1995) ‘The Historical Evaluation of British Industrial Relations’ Edwards,
Paul (eds.) “Industrial Relations: Theory and Practice in Britain” Oxford, Blackwell,
pp. 95-126.

なお, 同書, 前掲書を示す *ibid*, *op. cit.* はイタリックにする。

【Website】

《インターネット上の図書, 雑誌論文を利用した場合》

冊子体の図書, 雑誌論文の表記方法に準じ, 最後に入手先の URL と入手日付を記す。

(例)

大分県企画振興部統計調査課 (2013) 『大分県統計年鑑 平成 24 年版』
(<http://www.pref.oita.jp/site/toukei/h24soumokuji.html>) 参照 2013. 4. 16。

(例)

朝水宗彦 (2012) 「オーストラリアにおける観光客の多様化と教育観光」 『日本国際観光学会論文集』
第 19 号, pp. 5-11 (http://www.jafit.jp/thesis/pdf/12_01.pdf) 参照 2013. 4. 16。

《ウェブページを利用した場合》

著者名 (更新日付) [記載があれば記入] 「ウェブページの題名」 ウェブサイトの名称 (URL) 入手日付。

(例)

ツーリズムおおいた「平成 23 年度事業報告について」大分県観光情報公式サイト
(<http://www.visit-oita.jp/aboutus/report.data/23jigyhouhoukoku.pdf>) 参照 2013. 4. 16。